

# 会報 わかくさの風

No.26

社会福祉法人戸田わかくさ会

〒335-0021 埼玉県戸田市新曽1522-1 わかくさ内

Tel 048-432-8198 Fax 048-432-8298 <http://www.wakakusa-kai.com/>

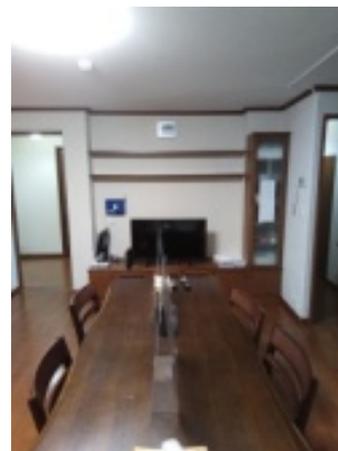
戸田わかくさ会のグループホーム4か所目となる、グリーングラス下前が昨年11月よりプレオープン・今年2月1日より正式に開所となりました。開所にあたりまし



今後、整備してまいります。入居者の方々は、日に日に打ち解けてきており、洗濯や洗い物なども自分たちで行ってもらいつつ、夜はリビングで野球を見ながら楽

て、ご協力いただきました関係者の皆様には改めてお礼を申し上げます。下前はグリーングラス初の試みとして、宿直職員を配置せず朝夕のみの支援体制をとり、夜間の職員不在時の緊急時については警備業者に委託することとなりました。本人、家族、支援者にも不安はあったかと思えますが、現時点では大きな問題もなく過っています。昨今、災害も続いていますので、非常時の対応は

## グリーングラス下前開所 法人4か所目となる グループホームを開所致しました



しく過ごすのが日常となっています。お借りした物件は、様々な便利な機能が備わっており、入居者の方々もとても生活しやすいようです。

### リビングの様子

まだ開所してから日が浅いこともあり、中々職員体制が整わないこともありますが、わかくさ会各事業所の職員にサポートしてもらいながら運営することが出来ています。また、入居者の方々も職員のサポートをしてくれたりと、お互いに助け合いながら日々を過ごしています。楽しみながらも落ち着いて過ごせるホームとなるように、引き続き私たちも支えてまいります。

(グリーングラス 寺内)

## 共生社会の実現に向け、 地域のネットワークの広がりを

日頃から法人運営にご協力頂きありがとうございます。心からお礼を申し上げます。

コロナ禍等もあり、広報誌の発行が途絶えておりましたが、体制を整え、再発行することができました。皆様方にお詫び申し上げます。今後改めて法人の活動をきちんとお伝えできるように頑張ります。

法人では3月末に吉川事務局長が退任し、統括施設長に猪野障害者基幹相談支援センター長が兼務で就任いたしました。また、この6月で理事・監事が任期満了となり、6月19日の評議員会で理事及び監事選任の承認をいただき、私はその後の理事会で理事長に選任されました。新たな体制でのスタートです。

リットを活かして、障害のある方々の願いを丁寧に把握し、施策化・社会資源化していけるように努力してまいります。

現在、厚労省は制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」、「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会、地域共生社会の構築に取り組んでいます。

法人理念のひとつである「一人ひとりが豊かに暮らせる地域社会の実現を目指します」は、まさに地域共生社会の構築に通じることで、法人の総力を挙げてその実現に取り組んでまいります。

また、障害福祉の指標である障害者基本法の本旨を実現するには、当事者参加が必要です。本旨に沿って当事者参加をどう実現していく

かが課題のひとつです。現在、法人の虐待防止・権利擁護委員会で、当事者参加をどう進めていくか検討しているところです。

さらに法人は2023年から2



そして「働く」「暮らす」「生きる」を支えていくためには「人として当たり前の生活の支援とは」を常に問いかけながら臨みたいと考えています。

最近、両親等を亡くし、身近に頼る人がいないという利用者もいます。今後、そのような方が増えていきます。法人として「そのような現実をしっかりと受け止め、支えていく」ことを方針としていきます。そのために、支援のネットワークの構築と併せ、解決方法のひとつとしてグループホームの整備があります。中期計画では今後女性棟のグループホームの整備をうたっています。

コロナもインフルエンザ並みの5類に移行しました。コロナ禍での「我慢」から少しずつですが、注意を払いながら交流の機会が増えるようにしたいと思います。

新たな体制下では、法人理念を実現する持続可能な組織体制の構築が大きな課題であります。皆様方のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(理事長 竹嶋 紘)

025年までの中期計画を作成しました。この計画を基本にして事業展開してまいります。支援の姿勢として、利用者の生活全体を把握し、家族背景も理解し、支援のネットワークを構築していきます。

特集

## 事業所をつなぐオンラインイベント

新型コロナウイルスの蔓延により中止となっていた、三作業所（わかくさ、かがやき、ゆうゆう）による交流会が三年ぶりに再開します。

オンラインという言葉が、大人から子どもまで社会全体にすっかり浸透しています。我がわかくさ会においても、利用者間の交流だけでなく様々なことに活用しています。今年度は初めてオンラインで交流会を開催することになりました。



実行委員によるオンライン会議

この初の取り組みに、年が明けた早々の一月から法人全体で準備を進めてきました。各作業所で利用者の実行委員を募り、打ち合わせを重ねました。もちろんその際の実行委員の会議はオンラインで行われ、そこで出た意見を各作業所の自治会で話し合うことで、実行委員だけでなく利用者みなで交流会に向けイメージを膨らませています。

さて、今回の交流会は、全体によるカラオケとビンゴ大会が企画されています。企画や準備、当日の司会進行等、実行委員が主となり行います。カラオケでは、何を歌いたいのか、それはそれは多くの候補が出ましたが、最終的に、幅広い年齢層が知っている大ヒット曲の「世界にひとつだけの花」に決まりました。そして交流会の目玉とも言える、チームに分かれてのビンゴ大会。景品を何にするか、

実行委員が行います。ビンゴに欠かせないカードは市販のものを使わずに、三作業所職員の顔写真が入ったオリジナルの物を作りました。



当日をイメージして読み合わせ中

これは、「他の事業所の職員の顔も知りたい」という実行委員からの素晴らしい意見から生まれたものです。普段は見る事が出来ない変顔やユーモアあふれるポーズもあり、職員の新たな魅力を発見してもらえると良いと思います。このカード作りには、実行委員だけでなく利用者みなさんも楽しんでみながら参加し、当日に思いを馳せています。

今年度の交流会はオンライン開催のため、同じ場所に集まって親睦を深めることはできません。少し寂しく思うところがあり、以前のように一堂に会した交流会が開催できると良いと感じています。一方で今回の交流会が、例年と同じように利用者交流の機会となり、オンラインだからこそのこれまでとは違った発見や楽しみ方に繋がったね、オンラインもいいね！」と利用者みなさんの心に深く残るものになれば、とてもうれしく思います。

（ゆうゆう 佐藤）



職員の顔 千ヨキ千ヨキ♪

# 各事業所の取り組み

## わかくさ

### 畑を始めました

今年の2月から、利用者者と作業の合間に草取りや土の耕しを始め、わかくさの中庭に畑を作りました。雑草や石だらけだった中庭を少しずつ整備していき、肥料や苗の買い物に出かけ、徐々に畑の形にしていきました。すべての場面を利用者主体で進めて行きました。

春からいちごの苗を植え、ラディッシュや枝豆、オクラは種から育て、芽が出た時や少しづつの成長をみんな喜びました。スペースも拡大していき、ミニトマトやシソなど、種類も多様になっています。毎日、水やりや整備を行うことで、利用者自身が自分の役割と認識していく様子が見られています。

「今日はいつ水やりに行くの」と笑顔で職員のもとへ聞きに来ることや、畑仕事を励みにその他の作業を頑張っている姿が見られています。

収穫も徐々に増えており、取れた野菜やいちごを満開の笑顔で食べたり、職員や他利用者におすそ分けにいく利用者もいます。野菜が苦手そうな利用者もその場で食べることもあり、「おいしい」と感想を伝えてくれています。そんなやりとりの中で、職員も嬉しさを感じながら働くことができます。

先日、利用者のご家族からゴーヤの苗を寄付して頂きました。ネットを張り、ゴーヤカーテンを目指して成長を見守っています。

今後も季節ごとに他の作物も計画していき、利用者や職員全員で育て、成長を見守っていきます。

(わかくさ 穴井)



## ゆうゆう

### 地域での活動から感じること

ゆうゆうで働き始めてから2か月余りが経ちました。経験も少ない中ですが、地域での活動を通じて私を感じたことを書いてみたいと思います。

■「ご苦労さまです。」



これは駅前清掃をしていた時に地域の方から頂いた言葉です。声を掛けてくださったのは、これから駅を利用して出かける場所と思われ、ご夫婦でした。利用者さんにも優しい表情と労いの言葉が伝わったことと思います。



■「此処のどら焼きが一番好き。」

これもまた地域の方から頂いた言葉です。これは、ゴールデンウィークの最終日、こどもの国で販売をしていた時のことでした。どら焼きはいろいろ食べたけれど、ゆうゆうのが一番おいしいというファンの方の嬉しい声でした。

温かい言葉がけを紹介させて頂きました。厳しいご指摘もありました。地域の方々はゆうゆうの活動に関心をもって、見ていてくれることが分かります。

一生懸命社会の一員として働いている利用者みなさん、活動を共にする私たちは支援者としてどのように映っているのでしょうか。自分たちも見られている立場として、気を引き締めていく必要があると、これまでの経験から感じています。

(ゆうゆう 鈴木)

# 各事業所の取り組み

## かがやき

### 働きやすい環境を目指して

コロナ禍以前、かがやきでは一つの作業室で作業を行う、いわゆる「密」の状態でした。感染症対策として2021年度にレイアウト変更を行い、作業場所を多目的室と作業室の2つに分けたところ、利用者が作業に参加しやすくなる等、良い結果が見られたので、2022年度は、作業場所を作業室・食堂・多目的室の3つに分けました。以前は、利用者同士のトラブルが頻発していましたが、作業や食事、自治会をそれぞれの作業場所で行うように統一し、トラブルが減少しました。また、自治会が出た利用者の意見を参考に毎月の職員会議の中でフィードバックを行い、より良い環境で作業に取り組めるように改善に努めました。

コロナ禍をきっかけに実施したレイアウト変更でしたが、「密」を避ける以上の成果を得ることができました。ある利用者は集中して作業に取り組む環境を得ること

ができました。また、かがやき内を歩き回る利用者が減り、落ち着いて過ごす利用者が増えました。自治会についても少人数で行うことで、今まで積極的に発言をしなかった利用者から意見を出してもらえるようになりました。



今後より良い環境で作業に取り組めるように利用者の意見を取り入れながら、環境調整に取り組んでいきます。

(かがやき 蛭間)

## グリーングラス

### グリーングラス

#### 第2上戸田も心機一転

下前開所に伴い第2上戸田も空気が出来、新たな入居者を迎える心機一転再スタートしています。



新しい方の入居までの間人数も少なく時間に余裕があったため、やってみたいという方のみですが以前行っていた夕食を自分たちで作る取り組みを再開しました。例えばお味噌汁であれば、調味料の

量や器具の使い方の説明しながらほとんど1から作っています。他にもおかずが少ない時には、買い置きしてある冷凍食品などを使って簡単な一品料理も作ってもらっています。自分で作ったお味噌汁は「うまい！」とのことです。

また、新規入居者を迎えてからは、共有箇所の掃除の分担も見直しました。今まではお風呂掃除はほとんど1人の方が行ってくれていましたが、新しく入居した方も交え全員で相談し合い、平日と休日を担当する人を変えてみることにしました。他の方にも別の共有箇所を掃除してもらおうよう、分担を検討中です。



そして昨年度末から消毒とマスクの着用・出発前の検温など新型コロナウイルスに気を付けながら、ホームの行事を再開しました。少しずつ今までの日常を取り戻せるようにしたいと思います。

(グリーングラス 寺内)

# 各事業所の取り組み

## ひかり・大地

### それぞれの役割

『障害者生活支援センターひかり』と『指定特定相談支援事業所大地』は戸田公園駅から徒歩4分ほどのマンションの一室にあります。同じ事務所内に二つの相談事業所があつて分かりづらいですが、それぞれ役割が少し違います。

『ひかり』は市委託の相談事業所の一つです。主に東部地区を担当し、生活全般の困り事をお聞きして適切な支援機関に繋いだり、直接支援として受診同行や各種手続き支援、障害年金などお金に係る手続き支援など、健康を維持して安全に、その人らしい暮らしを送るための様々なことに関わります。また、『自立支援協議会』という地域課題について話し合う場に参加し、暮らしやすい地域づくりに関する関係機関との連携を深めたり、様々な支援機関と協力し

て一人ひとりに合った支援の仕組みづくりや課題解決に取り組んでいます。

一方、『大地』は障害福祉サービスの利用を希望する方の相談に応じ、各種福祉サービスの紹介や事業所の紹介、見学同行などを行いながら、ご希望のサービスを安心して利用できるよう支援しています。戸田市は県内でも若い子育て世帯が多い地域ということもあり、発達に心配のあるお子さんのご家族からの相談が特に増えています。児童発達支援や放課後等児童デイ、保育所等訪問支援などお子さん向けの福祉サービスも充実しつつあり、常に変動する地域資源情報をキャッチして情報提供に努めています。

ひかりと大地は同じ事務所にある利点を生かして連携協力し、それぞれの役割を担いつつ、より良い相談支援体制を築けるよう努力していきます。

(ひかり・大地 高野)

## 戸田市障害者基幹相談支援センター

### チームワークで緊急対応の難局を乗り切る

基幹相談支援センターは障害児者の生活に関する最初の支援窓口で、適切な入支援を行えます。

ある日のこと、住むところを無くした20代の女性（療育手帳C）がかつての支援者に連れられ、保護を求めて戸田市役所に来庁している、と連絡が入りました。市内の短期入所施設に問い合わせ、その日の晩から数日間の宿泊先を確保することができましたが、すでに先約が入っていたため数日後には一旦退所しなくてはならず、2か所目の短期入所先もすでに予約で埋まっていたという厳しい状況でした。短期入所とグループホーム

の利用にあたり、相談支援事業所ひかりに急遽サービス等利用計画案を作成してもらい、生活保護申請やグループホームの見学等はひかりと基幹センターが一緒に動きました。急いでもらったのはひかりだけではなく、グリーングラスには空いていた一部屋を、わかくさには日中活動の場を提供してもらいました。無理と断られても仕方なかったのですが、潔く引き受けてくれた「チームわかくさ会」には感謝の気持ちでいっぱいです。

緊急支援の場合、前例のない対応を求められることが少なくなく、それぞれの事業所が今までのやり方を通そうとすると支援の隙間ができてしまうことがあります。今回は関係機関が少しづつ歩み寄ってタッグを組めたことで、その隙間が埋まり、結果グリーングラスは彼女には合わなかったのですが、次のグループホームへ入居するまで無事に支援の輪をつなげることができました。

(基幹 吉長)

# 各事業所の取り組み

## 戸田市就労

### 支援センター

#### 今年度の取り組み

##### 【企業情報交換会について】

今年の11月に就労支援機関と企業との情報交換の場「企業情報交換会」を計画しています。

戸田市の住みよいまちづくりを指し、障害のある方の「働く」にスポットを当て、就労支援機関や戸田市内の企業間で様々な障害者就労の情報を共有できる場を作ることを目的です。

戸田市障害福祉課や、経済戦略室、戸田市商工会、就業・生活支援センターみなみの協力を得ての開催となります。

##### 【企業ニーズアンケート】

昨年度は戸田市内の企業60社に「障害者雇用促進に向けたアンケート」を依頼し約20社の企業から返

答をいただきました。

障害者雇用における企業が関心のある事柄については、障害特性について、合理的配慮、助成金制度についてでした。

障害者雇用において有意義に感じている事柄については、休まず働いてくれるなど、会社の戦力になつてくれるなどで、企業からの期待値が高いことがわかりました。

##### 【企業情報交換会に向けて】

アンケートに回答していただいた企業を含め、戸田市内で障害者雇用を行っている、または考えている企業に企業情報交換会の開催を周知していきます。内容は、アンケートの集計結果を踏まえた研修と企業同士で情報交換ができるグループワークを企画しています。障害のある方が地域で生き生きと働き、企業が活性化する第一歩になればと思います。

(戸田C 竹中)

## みなみ

### 動向を見守りつつ

##### 【障害者雇用率がアップ】

障害者雇用の最近の動向として、障害者の雇用の促進等に関する法律の改正がありその一部ではあります。2024年4月から民間企業の障害者の法定雇用率が2.3%から段階的に引き上げられます。2024年4月には2.5%となり、2026年7月には2.7%となります。従業員数で考えた場合2.7%では37.5人以上の事業所は障害者の方を1名雇用する義務が生まれることとなります。

##### 【短時間雇用が雇用率算定へ】

また、2024年4月から短時間労働者（週所定労働時間10時間以上20時間未満）である「精神障害者」「重度身体障害者」「重度知的障害者」について1人の雇用を持って0.5人とカウントされることとなります。障害者の特性上や短時間の勤務を希望していた方や短時間であれば働きたい方が、

より就労に挑戦しやすい環境になっていくものと思われれます。

##### 【障害者雇用ビジネス】

他にも、障害者雇用分野で話題になつている、障害者雇用ビジネス（※1）に対して昨年度、労働局が実態把握調査を行い、事業主が行うことが望ましいポイントをまとめたリーフレットが作成されています。

みなみからも障害者雇用ビジネスを利用した企業で就労している方もいますのでこうした動向を見守って行きたいと考えています。

（※1） 障害者の就業場所となる施設・設備（農園、サテライトオフィス等）及び障害者の業務の提供を行う事業

（みなみ 酒井）



# 表現活動委員会

多様な「表現」の魅力を伝えたい

## 【地域への発信】

2011年に始まった戸田わかさ会の表現活動支援は、今年で12年目に突入しました。市役所や武蔵野銀行戸田西支店では毎年作品を飾らせて頂き、地域の皆様に向けて作品を発表する機会が少しずつ増えてきたように思います。特に、戸田市内で障害がある人のアート活動を支援している市民団体『ステラアート』からお声掛け



を頂いて、展覧会『みてみてアート展』に昨年度から出展してあります。そして、過去二回の展示では戸田市文化会館で大勢の方々から好評を得ることができました。また、この『ステラアート』のご紹介により、昨年度は埼京線の与野本町駅でも作品を展示することができました。

## 【さらなる広がり】

身近な地域の方々には作品を観て頂く機会が増えつつある一方、地元を飛び出して全国的に注目される作家も現れるようになりました。ゆうゆうの木谷章紀さんは昨年開催された『Art to You! 第8回東北障がい者芸術全国公募展』で衆議院議長賞を受賞し、作品が宮城県美術館（宮城）、東北電力グリーンプラザ（宮城）、0美術館（東京）の三か所で展示されました。さらに、今年にはゆうゆうの水村英喜さんの作品が渋谷公園通りギャラリーに招待されて展示されることになりました。

## 【今後に向けて】

障害のある方たちの魅力ある「表現」が社会的に正当な評価を

得るようになってきたことは大変嬉しく思います。そして、戸田わかさ会の利用者も含め戸田市内には、魅力ある「表現」をする人達がまだまだたくさんいると思っています。皆さんの多様な「表現」活動を今後も応援し、そのサポートと魅力発信に努めていきたいと思っています。

（表現活動委員会 清水）



## 今後の予定

第46回全国大会IN埼玉  
2023いきようされん  
【さげぼう命の尊さ  
抱こう人権の重み

つなごう平和への願い】

8月30日（水）

8月31日（木）

メイン会場 大宮ソニックシティ

## （法人の運営する事業所）

わかさ、福祉作業所ゆうゆう、福祉作業所かがやき、グリーングラス、戸田市障害者基幹支援相談センター、障害者生活支援センターひかり、障害者就労支援センター、障害者就業・生活支援センターみなみ、指定特定相談事業所大田



（ホームページはこちら）

<http://www.wakakusa-kai.com/>

facebookもやっています

## 【発行】

社会福祉法人戸田わかさ会

〒335-0021 戸田市新曽1522-1

TEL 048-432-8198 FAX 048-432-8298

## （編集後記）

コロナ感染症が5類に引き下げられたことで今まで自粛していた催し物などが再開しつつあります。

ただし、感染が完全になくならない中でいかにコロナと共存していくかが課題となっています。

障害のある方が地域の中で暮らす、働く、生きるために私達ができることは何か常に考えていきたいと思っています。